

農作物技術情報 第6号 野菜

発行日 令和8年8月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 共 通 台風等の気象災害に対する事前対策を徹底しましょう。
- ◆ 果菜類【施設】 気象条件に応じた温湿度管理やかん水管理を徹底しましょう。
- ◆ 果菜類【露地】 草勢維持と病害虫防除を徹底しましょう。
- ◆ 葉 茎 菜 類 雨よけほうれんそうは適期の品種切り替えと病害虫防除を徹底しましょう。露地葉茎菜類は病害虫防除と適期収穫を徹底しましょう。

1 生育概況

（1）果菜類【施設】

- ・ きゅうりは、抑制作型の定植が終わり、概ね順調に生育しています。病害虫では、べと病やアブラムシ類の発生が見られます。
- ・ トマトは、梅雨時期の日照不足により草勢の低下等が見られていますが、回復傾向にあります。病害虫は、灰色かび病、葉かび病、すすかび病、アザミウマ類、コナジラミ類、オオタバコガの発生が見られます。
- ・ ピーマンは、梅雨時期の日照不足により生育は緩慢となっています。病害虫は斑点病、アザミウマ類、タバコガ類の発生が見られます。

（2）果菜類【露地】

- ・ きゅうりは、日照不足により草勢が低下し、果形の乱れや流れ果が見られています。病害虫では、べと病や炭疽病、褐斑病、オオタバコガの発生が見られています。
- ・ ピーマンは概ね順調な生育ですが、日照不足により前年よりも草勢は緩慢となっています。病害虫は、斑点病、斑点細菌病、タバコガ類の発生が見られます。

（3）葉茎菜類

- ・ 雨よけほうれんそうは、日照不足により株が細い状況でしたが、地域によっては回復傾向です。病害虫は、萎凋病、アザミウマ類、シロオビノメイガの発生が見られます。
- ・ 高冷地のキャベツ・レタスは、降雨による作業遅れや乾燥による球肥大の遅れなど、地域により生育に差が見られます。病害虫は腐敗病、軟腐病、株腐病、タマナギンウワバ、オオタバコガ、一部でアブラムシ類の発生が見られます。
- ・ ねぎは、概ね順調な生育ですが、大雨等の影響により葉先枯れや生育停滞が一部で見られます。病害虫では、葉枯病、軟腐病、ネギアザミウマ、ネギハモグリバエの発生が見られます。

2 技術対策

(1) 共通

ア 台風等による大雨や強風対策

台風等による大雨や強風が多い時期になります。ハウス等のほ場周囲の明きょや排水溝の補修を行うなど、排水対策を再度確認してください。ハウスビニールの破れ、ハウスバンドの緩みの確認などを行い、必要な補修・補強を行ってください。

イ 天候に合わせた管理

東北地方の1ヶ月予報（仙台管区气象台8月20日発表）では、平均気温は高い確率が80%と予想されており、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多い予報となっていることから、天候に合わせて、施設の環境管理、整枝等の栽培管理、及び品種選定などを行ってください。

(2) 果菜類【施設】の管理

ア 全般

気象条件に応じた温湿度・かん水管理を徹底します。高温の際は、遮光や換気により各種障害果の発生軽減を図ります。かけ外しができる遮光幕の場合は、気温の低下に合わせて取り外して日射量を確保します。かん水量は、茎葉の繁茂状態や日射量に応じて調整します。また、通常年であれば、これからの時期は秋雨前線が活発になり、施設内が高湿度になる恐れがあります。適切な換気や摘葉等により、適正な湿度環境（湿度70%～85%、飽差3～9）を維持します。

イ きゅうり

- ・ 早熟作型の長期どりでは、茎葉の過繁茂による側枝の発生不足や通気不足による病虫害の発生を防ぐため、適宜、摘葉や整枝を行うとともに、防除を行います。
- ・ 抑制作型では、生育が旺盛で側枝の節間が長くなるため、整枝、摘葉作業が遅れないように管理します。また、ウイルス病（ZYMV、写真1）が発生しやすい時期のため、伝染源となる発病株は見つけ次第抜き取ります。



写真1 ZYMVの症状（左：葉、右：果実）

ウ トマト

- ・ 裂果の発生を防ぐために、土壌水分の急激な変化を起こさないよう、かん水は少量多回数にします。また、夜間の土壌水分が過剰とならないよう、曇天時には最後のかん水時間を早めるなど、天気に応じて回数を調整します。ハウス外からの雨水の横浸透にも留意します。また、9月以降は早朝の急激な気温上昇で果実が結露しやすくなるので、早めに換気を行い、果実表面の結露を防止します。
- ・ 主枝の摘心は、収穫打ち切りの日から逆算して決めます（10月末まで収穫する場合、9月上旬頃が目安）。開花花房の上の葉を2～3枚残して摘心すると、放任よりも果実肥大が良くなります。
- ・ ハウス内の最低気温が14℃を下回るようになったら保温を行います。
- ・ 病害では、葉かび病とすすかび病は見た目では区別ができないので、顕微鏡での分生子（胞子）の確認等について、最寄りの農業改良普及センターに相談のうえ、効果のある薬剤を選択してください。

エ ピーマン

高温の影響による石果（種子不足）に加え、今後気温の低下とともに障害果等の発生が増えてきますので、**気象条件に応じたこまめな温度管理**に努めてください。

- ・ かん水は土壌水分の急激な変化を起こさないよう**少量多回数**とし、ハウス外からの雨水の横浸透にも留意します。
- ・ ハウス内の**最低気温 16℃**をめどに**保温を開始**し、最高気温は 25～27℃を目標とし、32℃以上の高温としないように管理します。
- ・ 気温の低下に伴い、ハウスを閉め切ることが多くなると、**湿度が上昇し病気が発生しやすくなる**ので、日中は少しでも**換気**を行いハウス内の空気を動かすようにします。
- ・ 整枝は、混み合っている部分の枝を間引く（写真2の赤丸部分を中心に）、主枝摘心後に発生する枝を2～3節で止める程度とし、強い摘心は避けます。
- ・ 気温低下とともに収穫量も減ってくるため、追肥量も減らし、翌年に残肥が残らないようにします。
- ・ 防除は、**斑点病、灰色かび病**を中心に行います。



写真2 ピーマン V 字仕立て

(3) 果菜類【露地】の管理

最新の天気予報等も参考にしながら、定期的なかん水による**土壌水分の安定化**を図るほか、**整枝管理、病虫害防除**を行います。

ア きゅうり

- ・ 夏期の着果負担による成り疲れや急激な気温の変化により草勢が低下するため、**不良果などの摘果、摘葉、追肥**で草勢回復を図ります。
- ・ 摘心はアーチの外側に飛び出しているところを指先で止める程度にとどめます。
- ・ 摘葉は、新葉が常に発生するよう、**日光がアーチ内部に十分入る**ように行います（図1）。
- ・ 追肥は**速効性**の肥料を利用します。液肥を薄い濃度で葉面散布することもあります。
- ・ 防除は、**古葉や病葉を摘葉し、アーチの上部にも薬剤がかかる**ように散布してください。

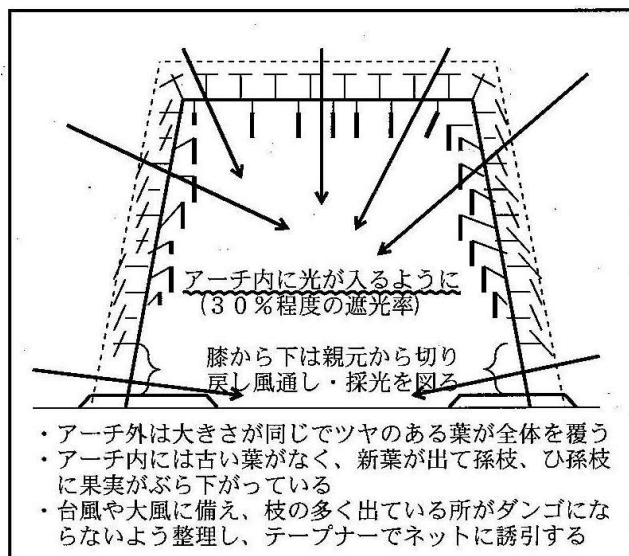


図1 露地きゅうり後半の管理ポイント

イ ピーマン

着果量が多い時期になりますが、高温下で形成された花器は肥大能力が劣り、収穫遅れによる赤果の発生が多くなります。また品種によっては、気温低下による黒変果の発生が多くなります。

- ・ 尻腐果の発生軽減として、**かん水による土壌水分の安定化**を図ります。
- ・ 草勢の維持を優先し**枝は放任**とします。
- ・ 追肥は9月中旬までを目安に終了します。
- ・ 変形果、障害果等で出荷に向かない果実は、**早めに摘果**し草勢維持を図ります。
- ・ 防除は、**斑点病、炭疽病、斑点細菌病、タバコガ類**を中心に行います。

(4) 葉茎菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

- ・ 現在秋まき品種への切り替え時期ですが、前述の1ヶ月予報（仙台管区气象台8月20日発表）では平均気温は高いと予想され、特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。最新の天気予報等も参考にしながら、各地域で示されている品種体系に基づき、**適期に品種の切り替え**を行います。
- ・ 高温傾向の際は、萎凋病の発生に注意が必要ですが、気温が低下しハウスを閉める時間が長くなると、**べと病が発生しやすい**ので、抵抗性品種であっても**日中は積極的に換気**を行い、適用のある殺菌剤を予防散布します。
- ・ 害虫では、ハウレンソウケナガコナダニやシロオビノメイガ等が発生しやすいので、適用のある殺虫剤で適期に防除します。

イ キャベツ・レタス

高冷地では今年の定植は概ね終了しています。今後は栽培管理をしっかり行い、**適期収穫により収穫率の向上**を目指します。

- ・ 腐敗病、軟腐病は**最低気温が20℃を上回り、かつ降雨がある場合に発生が多くなります**。今後も平年より高い気温が予想されるため、殺菌剤を予防散布します。
- ・ 害虫では、ヨトウムシ、**オオタバコガ**等が発生しやすいので、適期防除を実施します。
- ・ 収穫終了後の廃棄株や残さは放置せず、病虫害の発生源とならないように注意してください。

ウ ねぎ

台風等の強風による倒伏等の被害を減らすため、**適期での土寄せと黄色斑紋病斑（葉枯病、写真3）による品質低下対策**を徹底してください。

- ・ 出荷計画を明確にし、それに合わせて最終培土を実施する時期を決めてください。**最終培土は、収穫の20日前～30日前を目安**に行います。
- ・ 防除は、べと病、葉枯病、ネギアザミウマを主な対象として実施してください。



写真3 黄色斑紋病斑の症状

エ アスパラガス

- ・ これからの追肥は、貯蔵根への養分転流の妨げになるので行わないようにします。
- ・ 茎葉を最後まで健全に保つため、**病虫害防除を徹底**します。
- ・ 倒伏防止対策をしている場合は、台風等に備えて再度**ネットや誘引線の確認**を行います（写真4）。



写真4 フラワーネット利用による倒伏防止例

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は9月24日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。